

水と環境

これでいいのか欧州主導で進められるMBRの国際標準化

グローバルウォータージャパン代表 吉村 和就

4、MBR国際標準化作業の意義とその内容

EUのフレームワークには、「膜処理は最先端の技術であり、しかも世界市場にむけて開発されなければならない最高利用技術である、従って国際標準化は当然」と述べられている。

また標準化の内容については、仮発表であるが、ハード面(モジュールの設計基準、取り替え基準、構造基準、受け入れ基準、都市での設備モデル、分散型設備モデル)だけではなく、ソフト面(ライフサイクルの考え方、運転方法、ファ

欧州主導で進められるMBRの国際標準化作業、日本はどうしたらいいのか。

日本発の国際標準示せ

国、関連業界の総力あげ

してゐるであろう。従ってEUが総力を挙げて取り組んでくれることを覚悟しなければならぬ。

日本発の国際標準(規格)を最高に守るのが日本の常であった。ISO 14001認証数、日本が世界一)

に限らず、多くの国際標準化には積極的に関与してこなかった、国レベルでも民間企業レベルでも。しかし一度決められた国際標準

一例だが、筆者はISO/TC224「上下水道サービス国際規格」のWG3(上水道)部会長として、第一回のバリ会議(2002年)から第5回ベルリン会議まで参加し、日本の意見を述べたが、いずれの国際会議でも、開催国政府の支援があり、立派な会議場が用意されていた。

本年11月にISO/TC224最後の総会が日本で開催されることになったが、日本政府の積極的な関

1、リングの定義と判定方法、リスク分散、膜処理の普及方法)など多項目に渡っている、これも世界市場を指しているコンセプトである。

EU委員会は、EU市場25カ国向けにまず欧州規格(CEN105)を制定、次にグローバル戦略として国際規格(ISO)に上程

これらの場でも、自社の製品の優秀さの売り込みばかりでなく、日本発の国際標準化案の提出も望まれている。

6、業界あげての努力を基本的に日本は今まで膜

「東京都水道局研修・開発センター」で開催される運びとなっている。

また政府だけの責任ではない、民間会社の経営トップの国際規格化への理解の無さも挙げられる。社内でもISOや、その他の標準規格策定に従事する人間への評価が高くないことも問題である。

5、日本はどうしたらいいのか

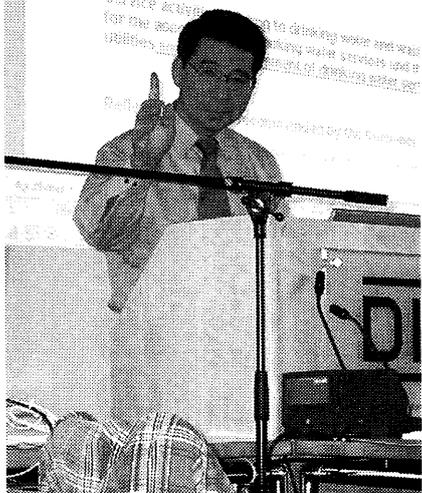
対策を考える前に、まず日本は欧州の戦略を学ぶ必要がある。

なせ日本は、良い技術を持ちながら国際標準化に遅れをとっているのか。例えばISOへの取り組み、日本政府は「ISOは民間の標準化の仕事であり、積極的に関与する立場でない」とのスタンスをとっている。

日本発のMBR技術が世界に普及し水問題が解決され、感謝とともに最後は我々の手に、その恩恵もたらされることを期待している。

日本膜が使用されている。優秀な日本の技術が世界標準にならないのは、それを認知させる努力が足りないからであり、今回の様な国際標準化は千載一遇のチャンスであり、国や関連業界を挙げて取り組む事が急務である。

ISO/TC224・ベルリン総会で意見を述べる筆者



ISO/TC224・ベルリン総会で意見を述べる筆者

膜に関する国際会議・展示会 (2007年)

3月12-13日 18-21日	IWAアドバンスド・サニテーション会議 AWWA膜国際会議	アーヘン/ドイツ タンパ/米国
5月15-17日	IWA第4回膜国際会議	ハロゲート/ドイツ
6月4-7日 4-6日	IWA先端水処理会議 第二回IWA若手向け膜会議	シンガポール ベルリン/ドイツ
7月23-27日	AMTA膜会議・展示会 未来は膜に賭けろ	ラスベガス/米国
10月30-31日	第7回アーヘン膜会議	アーヘン/ドイツ
11月5-9日	IMSTEC2007年 第6回国際膜技術会議	シドニー/豪州